

SPUS Worldview Map

Study and Practice of Useful Safety

行知萌芽（こうちぼうが）

Let Action awaken Knowing

行をして、知を芽生えさせる。SPUS の哲学の源泉。

影種（かげめ） → 揺味（ゆらじ） → 紀射（きざし）

Still Well → Live Shift → First Glow

静けさに潜む気配が揺れを生み、兆しとして立ち上がる三段階。

Risk Assessment / 6Rs

Retrieve → Reveal → Render → Relate → Range → Remark

潜むものをすくい、現し、立ち上げ、つなぎ、広げ、共有する

——危険の芽が「知」へと変わる六つの動き。

Risk Reduction / 6Ds

Mapping → Layering → Timing → Wiring → Proceeding → Matrix

空間・構造・時間・接続・工程・妥当性を整え、安全を実装する

——安全の形を世界に立ち上げる六つの構成。

RA Instructor 夢見凧（Yumemi Nagi）

リスクアセスメントの動きを読み取り、6Rs を現場に根づかせる象徴的指導者。

Exemplar

Visualizing Exemplars

6Rs と 6Ds の交点に生まれる「好事例」。

SPUS の知が初めて“形”として現れる場所。

Actual Feel Study / Real Practice Diagnosis / Paradigm Mark

危険の芽を身体で理解し、現場の揺れを読み、

好事例を文化として刻む SPUS の三本柱。

Little DEVISALs ensure Luck & Ease.

小さな工夫が、幸運と安心をもたらす。SPUS の流儀。

Elsewhy Archives

「何も起きていない理由」を記憶する器。

SPUS の知が静かに蓄積されていく場所。